

平成28年12月

各位

一般財団法人日本水土総合研究所  
理事長 齋藤 晴美  
(公印省略)

## ご案内

謹啓

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より当研究所の調査研究に当たりましては、格別のご高配を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、当研究所では、毎年、全研究員が自ら担当する調査研究課題に関する成果の概要を発表することにより、職員の技術力向上と職員を派遣して頂いている組織の関係者に当研究所についての理解を深めていただくことを目的とした調査研究発表会を開催しております。今年度も、下記のとおり開催することと致しました。

また、発表会に引き続き、交流会を開催することとしております。あわせてご多忙の折、大変恐縮ではございますがご出席賜りますようお願い申し上げます。

謹白

### 記

1. 日 時：平成29年1月27日（金）
  - (1) 調査研究発表会 14:00 ～ 17:30 (東海大学交友会館 朝日の間)  
(受付開始 13:30)
  - (2) 交流会 17:40 ～ 19:30 ( // 阿蘇の間)
2. 場 所：東海大学校友会館 (別紙案内図参照)  
住所：東京都千代田区霞が関3-2-5 霞ヶ関ビル35F  
電話：03-3432-7261
3. 調査研究発表会次第
  - (1) 主催者挨拶
  - (2) 業務概要紹介
  - (3) 調査研究発表
    - ①農村振興企画グループ ②水土資源保全グループ ③性能設計技術グループ
    - ④高度施設技術グループ ⑤国際水土グループ
  - (4) 主席研究員発表

※発表テーマ一覧(案)は裏面を参照してください。  
※本発表会は農業土木技術者継続教育認定プログラム(CPD)に認定されています。  
(CPD取得目安：3単位)
4. 交流会費：お一人様当り 4,000円
5. 出欠の確認：出欠のご連絡は、メールもしくは別紙 FAX 送信票で **12月26日まで**にお願いいたします。メールでは、発表会・交流会の出欠、お名前や連絡先等を記入して、[tyousa@jiid.or.jp](mailto:tyousa@jiid.or.jp) に送付してください(様式自由)。  
法人 個人
6. 問い合わせ先  
一般財団法人日本水土総合研究所 調査研究発表会実行委員会 三品もしくは傍島  
電話：03-3502-1586、FAX：03-3502-1329

以上

発表テーマ一覧（案）

区 分	発表テーマ（仮題）	氏 名
調査研究 概要紹介 (10分)	日本水土総合研究所における調査研究の取組状況	角田総括技術監
調査研究 発表 (各6分)	① 農村振興企画グループ	大須賀寿樹
	土地改良事業の実施を通じた農村協働力の活性化に関する調査分析	
	GISを活用した農地整備の調査計画に関する調査分析	小鹿勇児
	ほ場整備事業を契機とした高収益作物導入に関する調査分析	森澤健作
	畑地かんがい実施地区における地産地消促進効果の算定手法の検討	原田 亘
	大規模地震に係る新たな効果算定手法に係る調査分析	日南圭太
	中山間地域等直接支払制度への人口減少・高齢化等による影響分析	下元隆志
	② 水土資源保全グループ	草大輔
	農業水利施設の機能保全における環境配慮等に係る調査分析	
	高収益農業の実現に資する農業水利に係る調査分析	嶺岸憲一
	国営地区に関する用水需要変化への対応に向けた調査分析	日下靖之
	③ 性能設計技術グループ	傍島裕人
	熊本地震による農地・農業用施設の被害に係る調査分析	
	国営造成干拓堤防の耐震性能検討に関する調査分析	畠中哲也
	実施中の国営事業における技術的課題に関する調査分析	池田隆則
	国営事業所の大規模地震時行動計画に関する調査分析	松永健
	④ 高度施設技術グループ	愛宕徳行
	農業用ダムの耐震性能照査実施上の課題と検討状況	
	大雨によるフィルダム表層すべりの崩落メカニズムと復旧方針	渡部公成
	地震で被災した農業用ダムにおける地質・断層調査と復旧の検討方針	桑原昭浩
	3次元モデルを用いたアーチダム解析	藍口真
	ダム周辺斜面の安全確保対策工法の検討事例	尾島豊彦
	⑤ 国際水土グループ	稲田善秋
ミャンマーで実施したモデルほ場整備事業の成果		
開発途上国における水路の設計の基本的な考え方	小山知昭	
主席研究 員発表 (各6分)	アジアの伝統的な灌漑水管理組織と日本の土地改良区の比較研究	橋本晃
	調査研究課題の動向と国営事業所への技術支援	松井俊英
	農産物の輸出に対する農業農村整備の効果に関する分析	山下正